

令和3年度 第3回茅ヶ崎市総合教育会議 会議録

議題	1 議題 茅ヶ崎市博物館の運営について
日時	令和4年1月20日(木) 午後4時00分～午後4時50分
場所	本庁舎4階 会議室4
出席者氏名	総合教育会議委員 佐藤市長 竹内教育長 赤坂教育長職務代理者 伊藤委員 大森委員 中馬委員 (事務局) 機構順 坂田企画部企画経営課長(企画部長代理) 前田教育総務部長 島津教育総務部教育総務課長 白鳥教育推進部長 青柳教育指導担当部長 瀧田教育推進部社会教育課長 須藤教育推進部社会教育課課長補佐
会議資料	・次第 ・資料1 茅ヶ崎市博物館の運営について ・追加資料 茅ヶ崎市文化資料館整備基本計画(抜粋)
会議の公開 ・非公開	公開
傍聴者	1人

○教育総務課長 本日は、お忙しい中ご出席をいただきましてありがとうございます。

教育総務課長の島津でございます。よろしくお願いいたします。

本日の会議におきましては、現在の新型コロナウイルス感染症の患者さんが増加しているという状況を鑑みまして、事務局の職員につきましては人員を減らして行わせていただきたいと思っております。ご了承をお願いいたします。

それでは、会議に先立ちまして、傍聴者及び資料の確認をさせていただきます。本日、会議の傍聴を希望される方が1名いらっしゃっております。

次に、本日の資料につきまして確認をさせていただきます。本日の資料につきましては、事前に送付させていただきました本日の次第、資料1 茅ヶ崎市博物館の運営について、また、本日机前にお配りしております茅ヶ崎市文化資料館整備基本計画の抜粋版でございます。以上3点でございます。過不足はございませんでしょうか。

それでは、ここからの議事進行につきましては、茅ヶ崎市総合教育会議運営要綱第3条

に基づきまして、本会議の議長であります佐藤市長にお願いいたします。

○佐藤市長 皆さん、こんにちは。お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

それでは、令和3年度第3回茅ヶ崎市総合教育会議を開催いたします。

教育委員の皆様には、昨年の11月に博物館の視察をしていただき、施設環境についてはご認識いただけたと思います。本日の会議では、博物館の建物本体のことではなく、運営について協議したいと思っております。建物が完成したからといって、人々が自然と訪れてくれるわけではございません。しっかりと多くの方が来てくれるような工夫が運営に必要だと思っております。後ほど担当課より説明がありますが、文化財等の調査研究、企画展や講座等の開催など、博物館の運営にあたり、教育基本計画にも市長部局との連携が記載されておりますが、私としては、総合学習などにおいて博物館と学校が連携した授業を実施したり、企業や地域と連携した教育活動が重要と考えております。本日は、委員の皆様からも、博物館の運営の在り方についてご意見をいただきながら協議していきたいと考えております。

それでは、次第に沿いまして、議題、茅ヶ崎市博物館の運営について事務局よりご説明をお願いいたします。

○社会教育課長 それでは、社会教育課長よりご説明をさせていただきます。

初めに、資料についてご説明させていただきます。事前にお送りした資料1につきましては、まず博物館というものの定義や求められている役割、博物館を取り巻く課題といった全般的な内容として作成したものでございます。

本日机上配付をさせていただきました追加資料につきましては、先ほどご案内がございましたとおり、平成27年度に策定した茅ヶ崎市文化資料館整備基本計画の中から、新しい博物館についての考え方や取組に関することを中心に抜粋したものでございます。資料1に基づきご説明をさせていただきますが、適宜追加資料である計画書の抜粋もご覧いただきますのでよろしくをお願いいたします。

それでは、資料1の1ページをご覧ください。博物館に係る法律でございます。博物館は図書館と同様に社会教育のための機関ではございますが、近年は社会からの要請と、博物館のこれまでの実績、可能性から、教育のための機関を基礎としながらも、文化振興、地域振興、観光といった領域まで法に規定し、博物館の社会的な目的の明確化を図る傾向にございます。

計画書の抜粋の9ページをご覧ください。9ページに、新しい博物館の基本理念（使命と役割）について述べております。新しい博物館におきましては、法の趣旨を踏まえ、茅ヶ崎市の博物館としての使命を「茅ヶ崎の自然やそこで営まれた人びとの暮らしを伝える資料などを、市民をはじめとする利用者と協力して活動することにより蓄積し、活用し、未来の人々へ伝えていく」こととし、地域遺産の保全・継承と活用、人づくり、地域づくり、文化創造の4つの役割を担うものとしております。

資料1にお戻りください。資料1の2ページでは博物館の定義を述べております。博物館法第2条で定義された業務を行っていく博物館を登録博物館といいます。文化資料館も登録博物館であり、新しい博物館につきましても今後登録の手続を進めてまいります。

次の3ページに、博物館の定義をイメージ図で示しております。新しい博物館においても、文化資料館の活動の中で収集した市の自然や歴史、文化に関する約7万8000点に及ぶ資料や、今後の博物館活動の中で収集、保管していく有形、無形の資料がこのイメージ図で示す対象資料ということでございます。

続いて、4ページに滋賀県立琵琶湖博物館が作成したイメージ図で示しております。こちらは博物館を1本のリンゴの木に例えるのであれば、3ページでご覧いただいた、調べる、集めて守る、伝えるが土、土壌であり、幹となる部分であり、肥沃な土壌であればあるほど木が成育し、市民や社会に対して提供できるリンゴという果実、すなわち活動の成果、効果が結実するという趣旨のものでございます。この図は琵琶湖博物館の資料として作られたものでございますが、そのまま全国の公立博物館に当てはめることができるものとして、博物館に関する研修資料などにも使われております。

計画書抜粋の12ページをご覧ください。新しい博物館につきましても、大テーマである「大地と人の物語」に基づき、収集保管、調査研究、教育普及の活動を行うことで、先ほど9ページでご覧いただいた4つの役割を担っていくということを表しております。この中で多様な主体との連携につきましても、1つ前の11ページに主体と連携の内容を一覧にしております。

なお、公民館については、3月から先行して博物館との連携講座として、旧相模川橋脚をテーマとした講座を開催する予定です。

また、藤沢市には浮世絵館、寒川町には文書館などはございますが、博物館はございません。そうした中で茅ヶ崎に博物館ができるということから、2市1町で連携して博物館活動ということも視野に入れてまいりたいと考えております。

それでは、資料1の5ページをご覧ください。近年の社会の変化に伴い博物館に求められる役割が多様化しており、観光、まちづくり、国際交流、福祉、産業分野といった分野にも期待が高まっております。新しい博物館においても、展示の解説の大見出しは英語表記を行います。また、下段に事例として記載しております回想法は、文化資料館でも老人ホームに資料を持参し、出前講座や回想法を意識した事業を実施しておりました。また、新型コロナウイルス感染症まん延以前には、介護保険の所管課と連携し、回想法の手法を用いた展示や旧和田家を活用した講座を行ったことがございますので、博物館においても引き続きこのような取組は続けてまいります。

学校教育との連携としては、昨今の傾向として、小学校3年生が社会科で昔の暮らしを学ぶ時期に合わせて、昔の暮らしを企画展として開催する博物館が多くなってきております。文化資料館においても、市内小学校の3年生の約3分の2が文化資料館に来館し、学芸員の解説の下、暮らしの道具を観覧し学ぶ取組を行ってまいりました。来館が難しい小学校については、依頼に基づき出前授業も行っております。また、小学校高学年や中学生、高校生は総合的な学習の時間や調べ学習で、大学ではレポートの課題で、また中学生が職場体験学習のために文化資料館に来館し、学びの求めに対応してまいりました。

計画書抜粋の17ページをご覧ください。今述べました資料館で行ってきた活動を継続するとともに、学習交流ということを特色の一つとしていきたいと考えております。特に次代を担う子供たちに向けた取組は力を入れていきたいところがございますが、さらに今年度から、GIGAスクール構想の下タブレット端末を1人1台利用できるという、この計画策定時には想定していなかった状況がございます。

次の18ページの情報の提供と発信にも関連いたしますが、子供たちが使用するタブレット端末を活用し、博物館からの情報発信や子供たちの学びを深める取組について、学校教育の所管課や小・中学校と連携を図りながら積極的に進めてまいりたいと考えております。

資料1の5ページで、もう一つの事例として記載しておりますコロナのような現代的な事象を後世に伝えていくために、今から保存する動きは幾つかの博物館で行っております。ただ、同様のものとして、東日本大震災を契機に過去の災害等の種類や情報を防災や防災意識啓発に役立てる展示や講座等による試みも全国で行われており、文化資料館でも行っておりました。新しい博物館の年間の展示の中でも、関東大震災をテーマに過去を振り返り、現在と未来について考える展示を行う予定でございます。

計画書抜粋の29ページをご覧ください。新しい博物館では、先ほどご覧いただきました学習交流のほか、交流展示ということで様々に取り組んでいきたいと考えております。

時間の関係で詳細は省かせていただきますが、新しい博物館の基本展示につきましては、計画書抜粋の35ページに記載しております。視察に来ていただいた際、基本展示室としてご案内したスペースにはこれらのユニットを設置いたします。

資料1をご覧ください。6ページの博物館の役割及び7ページの学芸員の役割につきましては、注釈に記載しておりますが、文化庁の委託事業として令和元年度にみずほ総合研究所がまとめた博物館の機能強化に関する調査報告によるものでございます。概要といたしましては、博物館に求められる社会的な要請の多様化が進んでいるが、その根本にあるのは博物館としての基本的な機能があり、その土台をしっかりと持った上で、地域への成果の還元、観光や国際交流、地域振興等に寄与していくべきということと、これらを担っていく学芸員には様々な能力が求められるというものでございます。

計画書抜粋の44ページをご覧ください。新しい博物館の運営体制としては、館長のほか複数名の学芸員を配置したいと考えております。新しい博物館は郷土博物館でございますので、先ほどご覧いただいた資料1の6ページ、7ページのともに2段目に記載しております地域との連携・地域住民への価値の還元、これは狭い意味の地域ではなく、茅ヶ崎市民に対してということになりますが、博物館の活動の成果をどう市民に還元していくのかということが重要であると考えております。博物館の活動に市民の方がボランティアとして関わっていただくような仕組みをつくっていくことも地域への還元の一つと考えますので、仕組みづくりについても検討してまいります。

資料1の8ページから10ページにつきましては、博物館の課題として、入館者数や財政状況などを記載しております。

8ページの入館者数でございますが、コロナ前の数値でございますが、近隣市町村の博物館の来館者実績は、大磯町郷土資料館が年間約2万5000人、平塚市博物館が年間約7万人、相模原市立博物館が年間約13万人でございます。新しい博物館は、この基本計画では、近隣の博物館や市のあらゆる情報を基にした分析により、2万7000人という年間来館者数の目標値を設定しております。施設につきましては、どうしても入館者数が成果をはかる指標とされることが多いですが、この目標来館者数も新型コロナウイルスがまん延する以前の数値であり、コロナ禍においては休館している博物館も多く、開館しても事前予約制等による入館者数の制限を行っているところが多い状況でございます。もちろんでき

るだけ多くの方にご来館いただけるよう取り組むことはもちろんですが、博物館の評価をするための指標としては、入館者数だけではなく、例えば来館者の満足度など様々な点から評価できるよう検討する必要があると考えております。

9ページ、10ページにつきましては、平成30年度の調査結果でございますが、市町村の財政状況というものはどこも厳しく、公立の博物館においてもその影響は様々あるというところがございます。

11ページの法律につきましては、公立の博物館は博物館法により入館無料が原則でございます。博物館はほぼ公費により運営されております。博物館として一定の予算を確保していくためには、市民、来館者にどれだけ成果を還元できているか、また、市にどれだけ貢献しているかということを示していく必要があると考えております。新しい博物館をまずは多くの方に知ってもらい来館していただく、さらにリピーターとなっていただくため、博物館としての基本的な役割を担いつつ、さらに多彩で魅力ある活動を展開していく必要があると考えております。

計画書抜粋の10ページから15ページにかけては、新しい博物館の活動について述べております。新しい博物館の近傍には、国史跡や旧和田家、旧三橋家があり、また、自然豊かな場所がございます。これらの立地を生かした活動についても、市民、利用者とともに取り組んでまいりたいと思っております。

また、28ページから30ページは展示計画をお示ししております。企画展示室や野外の展示ができるスペースもございますので、それらを活用した企画も考えてまいります。

資料1の12ページから14ページにつきましては、コロナ禍を経た博物館の役割でございます。

13ページに記載したこれからの博物館が果たすべき役割は、計画書抜粋の9ページの基本理念で掲げておりますが、この計画は新型コロナウイルス感染症がまん延する以前のものでございます。したがって、資料1の12ページにあるような新型コロナウイルス感染症対策、新しい生活様式を踏まえた取組やオンラインの活用といったところは基本計画では網羅されておられません。学習交流や交流展示などを進めていくためにも、新しい博物館の検討課題として、開館後に博物館に設置する運営協議会とともに、運営方針の中で検討してまいります。

最後に、資料1の14ページでございますが、コロナ禍にあつて博物館は大きな転換点を迎えております。そのような状況下で開館を迎える茅ヶ崎市博物館でございますが、基本

計画にうたっております活動テーマを実現できるよう取り組んでまいります。

説明は以上でございます。よろしくお願ひいたします。

○佐藤市長 ありがとうございます。ただいま事務局よりご説明をいただきました。これから皆様からご意見等をいただきたいと思います。ご意見のある方はどうぞ。

○赤坂委員 社会教育課が大変な使命感を持たれて、懸命に熱く取り組んでおられるのを見てきていますので、私から特段言うようなことはあまりないのですが、1つ質問させてください。やはり開館当初が大事だと思っています。開館当初、市民の皆様をどのように引きつけようとしていますか、市民の皆さんにとって何か魅力のあるようなイベントを考えておられますか、お伺ひします。

○社会教育課課長補佐 ありがとうございます。限定的な形での開館とはなりますが、開館は夏を想定しております。夏の時期ということで、親子を対象としました体験型というか、夏休みの親子のニーズに応えられるような企画展とワークショップを開催してまいりたいと考えております。具体的なテーマに関しましては、まだ館内のスタッフと検討しているところもございますので、より具体的なものが提示できるようになりましたら、また皆様にもご連絡させていただきたいと思っております。

また、親子向けだけでなく、やはり全市的な施設でございますので、そこにはやはり魅力的なものを持っていきたいと考えておまして、ちょうど大河ドラマで「鎌倉殿の13人」がNHKで放映されておりますが、茅ヶ崎もドラマの舞台の1つです。藤沢市や寒川町では今後、大河に関係した企画が催されると聞いております。茅ヶ崎市も懐島郷が中にごございましたので、それを取り込んだ企画展をこの時期に合わせて開催してまいりたいと考えております。

○伊藤委員 12ページのところに社会状況と博物館の課題について書かれていて、その中に、先ほどご説明がありましたように、ICT技術の進化に伴うオンライン社会の到来ということで、VRなどの言葉が出てくるのですが、茅ヶ崎市の博物館においても、VRというのは非常に大事なもので、特に入院をしているお子さんとか実際にそこに行けないお子さんに対して具体的な体験ができるというようなものだと思いますので、ぜひとも活用をお願いしたいと思います。

同時に、茅ヶ崎市は1人1台タブレット端末を配備している市ですので、総合的な学習の時間などで、タブレット端末を活用して、実際に現地に行っているようにオンラインで解説を聞きながら、ロイロノートなどでお子さんの意見を取り出していくような活動が

あってもいいと思います。その辺についてはどうでしょうかね、オンラインとかVRのことについてはいかがでしょうか。

○社会教育課課長補佐 ありがとうございます。今いただきましたICTの活用を博物館でという話は、文化庁のほうも、やはりこのコロナ禍を経て推進するよという形で指針が出ておりますし、また、補助金も出ております。そういったものを活用しまして、来館しなくとも来館しているのとほぼ同等の学習効果、観覧するということによる学びを享受できるように整えていくということが新しい館の使命でも一つあると思いますので、そういうものにも取り組んでまいりたいと考えております。

またVRですが、例えば下寺尾の遺跡群、国の史跡でございますが、実際現地を訪れると平地が広がっている状況でございます。そういった遺跡、では一体どんな建物があったんだろうかというものを再現している他の博物館では取り組んでいます。VRコンテンツも、館単体ではなく、例えば研究機関と協働して製作したり、そして来館者の方に提供していくという取組も近隣の館でも行われておりますので、我々もぜひ取り組んでまいりたいと考えております。

○竹内教育長 今、VRというようなお話もありました。そうしたせっかくのツールをいろんな形で生かしていけるといいなと思うのと、もう一つ、この博物館は、この地域にあるというのは非常に意義のあることだと思います。というのは、その地域には重要な史跡が点在しておりまして、地域全体の中ですごく一体化した大事な史跡群だというふうに考えます。今事務局のお話があった中では、まだ施設などがそこにできてくるというわけではないのですが、当時をしのぶような、こういうものがあつたのかと思うようなものをVRで考えられるのではないかとということもあつたと思います。

その土地、その地域を実際にフィールドワークして歩くということも、体験的な活動として私はすごく大事なことかなと思っています。そして、ここにはこういうものがあつたんだということがその場に行くイメージできるようなものとして、画像をそこに掲げることでもできるのかもしれませんが、もう一つ、今、ARというのが技術としては出てきて、スマートフォンをその場所に行ってかざすと、こういう建物があつたのではないか、こういう施設があつたのではないか、こういう地形になっていたのではないかとかが見えるというような技術も発展してきたということで、お金のかかる部分ではあるとは思いますが、こういったことも将来的には検討していけると、よりその地域への興味関心も高まってきて、多くの方も訪れて楽しんでいただけるのではないかなとは思ってい

ますが、そうしたところをぜひ目指していただけるとうれしいなと思っています。意見でございます。

○大森委員 様々のご準備、ありがとうございます。見学させていただいたときに思いました。コロナと共存しなければならない今の状況下ではありますけれども、子供たちや児童たちがあそこに足を運んで、ぜひ茅ヶ崎、自分が生まれ育った地域への愛着や関心を持っていると思うので、それをくすぐるような施設になることを非常に期待しています。

学校教育との関連の中では、本当にコロナ禍で難しいとは思いますが、できるだけ少人数で出かけて行って、そこから興味関心は広がるでしょうし、そこから、では家族で行ってみようよというところにもつながるのではないかと思いますので、まず学校で大事に活動が活かされることを期待し、願っております。感想です。

○中馬委員 同じようなことですが、本が好きで、この時期になって図書館に通うのもちょっと足が遠のいてしまいまして、もちろんオンラインで調べて、それを発注して貸してくださるという仕組みをつくってくださっていてとても便利だと思いますが、やはり実際にそこに行って、その空気を味わったり、そこで物を実際に見て選ぶというのがすごく私は大事だと思っています。なので、このオンラインの状況の中で、オンラインを通じて、そこで画面で見たものを実際に見に行きたいなというふうに足が向くような導き方みたいなのができるといいなと思っています。

図書館だと割と交通機関に近いところがありますが、博物館は少し離れたところにあると考えたときに、結構強い気持ちがないと足が向かない場所だと思いますので、企画はすごく大事だと思います。ですので、すごくいろんなことを考えられて造られた施設であり、重要な文化財を収蔵管理できる良い設備が整っていますので、施設や文化財を生かしながら、市民の皆さんも施設の運営に参加しながら、みんなで博物館を盛り上げていけるといいのではないかなと。具体的な方策はちょっと出てこないんですけども、感想です。

○赤坂委員 社会教育課にもう一つ質問させてください。小学校3年生に交流学习が多いということですが、例えば茅ヶ崎養護学校のお子さんが来館して学習するなんていうことは可能でしょうか。

○社会教育課課長補佐 ありがとうございます。現在の中海岸にある文化資料館はやはり50年前の施設でしたので、なかなか養護学校さんが見学に訪れる対象とはなり得なかったところがございます。今度オープンを予定しております新しい博物館はユニバーサルデザ

インに努めておりまして、障がいのある方やそういった児童・生徒がご来館できるようにしております。駐車場の整備はまだこれからですが、バスでお越しいただいてもスロープ等も整備されておりますので、ぜひ来て学んで、楽しんでいただきたいと思いますと思います。

○赤坂委員 いいですね。ぜひ交流していただきたいです。

○竹内教育長 市長さんも先ほど触れていただいたところですが、学校との連携の在り方として、博物館から少し遠い学校は、すぐに行くというのはなかなか難しいかなと思います。オンラインで、授業で直接博物館とつなぎながらやっていくようなことは可能なものですか。例えば学芸員さんが授業の中の講師、先生の一人として、博物館を背景にオンラインで希望する学校に配信するようなこと、そんな授業の取組方も選択肢としてはどうですか、いかがでしょうか。

○社会教育課課長補佐 ありがとうございます。博物館に配置されるスタッフや学芸員が、例えば教科書に出てくる昔の暮らしを学んだとして、では茅ヶ崎はどうだったのかということ調べる時に、博物館の職員とオンラインでつながって、お話や資料を紹介しながら、茅ヶ崎ではこういう暮らしだったんだよということをお伝えすることも可能です。自然で地層とかの話をした場合、茅ヶ崎はどういった地層になっているんだろうかということ、自然を担当する学芸員がお話をしたり、資料を紹介したりということ、標本を持ってできることになりますので、学校での学びをより身近なものとして紹介することが可能になっていくと思います。ぜひそういった取組をしていきたいと思います。

○竹内教育長 すみません、たくさんお話をさせてもらって。歴史や考古学などに関心が高い人もすごく注目してくれるだろうと思いますが、あまりそういったところに関心がいまひとつ十分ではなかった方たちも行ってみたいという気持ちにさせる。そういう意味では、多くの市民の皆様が親しんでもらえる博物館であってほしいなと思います。そのときに市民の皆さんが参加できるその在り方というのは、多様性をぜひ発揮していければなと思います。今ボランティアとして参加して下さったり、一緒に研究に参加していただいてその成果を発表するなんていうこともあると思いますし、もしくは、例えば、家には代々伝わっているような歴史的・文化的な価値が高いというようなものをお持ちの方が、ぜひほかの市民の皆さんに紹介したいんだという場合があった場合には、そうしたものを持ち寄って皆さんに発表できるような、もしくは展示できるようなことというのは可能なものでしょうか。

○社会教育課課長補佐 ありがとうございます。これまで文化資料館の特色の一つとして、市民と協力して行う博物館活動というのを取り組んでまいりました。新しい博物館におきましても、その活動を継承してまいりたいと考えております。参加の仕方に関しましては、やはり人の興味関心によって、深くボランティアとして関わる方もいれば、受け身で参加したいという方もいらっしゃると思っております。なので、多様な参加が可能になるように、例えばまずは講座や観察会、ワークショップといったものに参加する。それから、そこでより興味を持った方が例えば一緒にフィールドワークしませんかという呼びかけに対して参加できるような仕組みを整えていきたいと思っております。さらに深いところでは、博物館が行う調査活動、研究、そして発表を、市民のボランティアの方とともに一緒にしていきたいと考えております。

また、おっしゃられたとおり、資料を貸すとか寄贈いただくというのも1つの参加の方法だと考えております。そういった資料をお持ちの方がたくさん市内におられますことを把握しておりますので、お借りして展示するという、もしくはご寄贈いただくという方法もあるかと思いますが、そういった多様な参加ができるようにしていきたいと考えております。

○社会教育課長 市民の方の参加というと、大人ももちろんですが、他の博物館の例として、子供たちが、自分が学芸員だとしたら博物館を使ってどんな企画展示をしますかというのを考えてもらって、実際に博物館で行うというような取組を行っているというのを聞いております。こちらとしても、例えば公民館と連携して、お子さんたちに考えていただいて、また子供たちが考えて企画展示したものですということであれば、当然ながら保護者の方も見に行こうというきっかけにもなるかと思っておりますので、そうした取組もしてまいりたいと思っております。

○社会教育課課長補佐 すみません、もう一つ。先ほど図書館のお話をいただいていたかと思っておりますが、新しい博物館は図書館分室も設置する予定で図書館と準備を進めております。こちらのほうに用意する本は、茅ヶ崎の自然、歴史文化、あと美術も含めて、特色ある分室を予定しております。物を見て興味を持った来館者、利用者の方がより深い、もっと知りたいなと思ったとき、そこで止まってしまうのではなくて、ぜひあちらの図書館分室へ行ってください、本がありますよという促しをして学びの循環、本と物の学びの循環が生まれればというふうに期待をしております。分室は図書館で司書の配置を予定しておりますので、学芸員とともに社会教育が高まっていけるような活動をしていきたいと考え

ております。

○大森委員 資料の17ページに学習交流について書いていただいていますけれども、その中で目に留まったのが（カ）の次代を担う学生のインターンシップなどの受入れという文章を見たときに、非常に心躍りました。先日の成人のつどいのときに実行委員になった学生さんたちは、本当に自分事として感謝の気持ちを込めて、自分たちが主体でやってくださったつどいを見て大変感激しました。学生さんの力を借りるということもとても大事だと思いますし、いろいろな企業や職場などでも学生のインターンシップ制度を取り入れたりしておりますので、若い力にも力を貸していただくという思いはぜひつなげていただければと思います。

○伊藤委員 大きく2つあるんですけども、1つは、今の大森委員のお話と重なるのですが、インターンシップ、これは非常に大事なことかなと思います。学生は社会に出る前にどんなことをして何を学んだか、そのために自分の力をどう使ったかというような体験はとても貴重な体験になると思いますので、インターンシップを受け入れていただけるように努めていただけるといいなと思うところです。

もう一つは、幼稚園、保育園での学び、小学生での学び、中学生で学び、高校生で学び、ずっとあると思いますが、高校生を例にとって、ここの資料の11ページにある調査研究の共同、博物館実習、人材交流というのはどんなことが考えられるのでしょうか。

○社会教育課課長補佐 ありがとうございます。こちらで想定しておりますのは、例えば生物や歴史関係の部活動、もしくは高校の先生で非常に見識深い方が中心となり授業等で活動されている高校があると聞いております。他の博物館の例になりますが、そういった高校の部活動と例えば生物分布調査などを行って、それを研究発表して、一緒に論文を書いて学会に発表したりとか、展示会をやったりというようなことを行っている館がございますので、市内の高校にも、こういう活動ができますよという働きかけを行ってまいりたいと考えております。

また、大学生ですと、課題のレポートで訪れることが多々あるのですが、学芸員の資格を取るという学生が必ず実習に来ます。そういった学生の実習、これまでは受け入れるのはなかなか難しかったのですが、今後、新しい博物館ではぜひ受け入れて、共に一緒に学んでいく状況をつくっていきたいと思っております。

○竹内教育長 いろいろお話しして申し訳ありません。こんなふうになるといいなという願いです。博物館で様々な展示だとか研究などを進めるという中には、歴史もあり、考古

学もあり、地域の自然、それから地形、そうしたものがあって、また茅ヶ崎のそれが魅力として発信できるということが大事なと思います。そうした歴史的な面、自然科学的な面から、茅ヶ崎を再発見していくということは、これからの茅ヶ崎をつくっていくことにつながっていくのではないかなという気はしています。

ですから、未来に向けての発信ができるような博物館としての機能も欲しいなという気持ちはあります。今のインターンシップですとか、子供たちに体験的な学習とか、若い人たちのここに寄せる思いなどを糾合できるような、そんな魅力ある博物館になってほしいなと。そうすると、来ていただくことはすごく大事だなと思うので、度々来ていただけるような博物館になっていくためには、常に新鮮なところがあるということが大事だと思います。展示の内容もそうですし、取組も、いつも何か期待感が次につながるというような、そんな博物館であってほしいなと思いますので、展示の内容などもどんどん更新していったり、リニューアルしていったりするということができればいいなと思っています。

○佐藤市長 先ほど2市1町の取組という話も出ましたけれども、具体的に何か考えていることがあるのかどうか、ちょっとお伺いしたい。

○社会教育課課長補佐 これまで寒川町とは約5年間、毎年1回、1市1町で共通のテーマとなるものを、それぞれの方法で展示会というのをやっていました。例えば先ほどの関東大震災や浜降祭もそうですし、戦争をテーマにしたこともございました。今後、例えば相模川も同じ1つのテーマですし、いろんなものがテーマになり得ると思います。また繰り返しになってしまうかもしれませんが、今の大河ドラマはまさにこの地域をテーマにしているところでございますので、そういったキャッチーなものも含めて、より面白く、茅ヶ崎という地域に収まらず、寒川の町民の皆さんにもご来館いただけるような展示会や企画が行われればなと思っています。

○社会教育課長 補足ですけれども、大河ドラマを契機にというのが、ちょうど寒川町も、そして藤沢市も大河の出演者が決まっている人物と絡んでいるというところもございまして、藤沢市のほうから、せっかく茅ヶ崎も関連もあるし、博物館もできるからということで、何か一緒にやってみようという提案もいただいています。ちょうど湘南ライフタウンは大庭氏に関わりが深い場所です。寒川町から車での移動ということで考えると、寒川から大庭に向かう途中で博物館がちょうどありますので、移動の途中で博物館がここにあるんだというのを近隣の市町の方に知っていただければ、ご来館もいただけるの

ではないかと、そういう意味でもぜひ進められたらと考えております。

○佐藤市長 藤沢市には博物館がない、茅ヶ崎市にはプラネタリウムがない。だから、藤沢市のプラネタリウムを博物館で宣伝してあげて、向こうのプラネタリウムに茅ヶ崎市の博物館の資料を置くなど、施設間の交流がないと知名度というのは上がっていかないと思うので、ぜひ館同士の交流というのをしていただきたいなと思っています。

それと、インターンシップは大賛成ですが、1つだけ。日本のインターンシップは対価、お金をもらえないんですね。働くというのは、対価があつてこそと思います。なかなかお金を上げるのが難しいのなら、例えばインターンをやるのが中学生だったら、ノートを1冊でも、非売品の博物館の特別の何かを上げるとか、何か1つ工夫をお願いしたいと思っています。

他にございますか、よろしいですか。

では、これで意見交換会の時間を終了とさせていただきます。

ただいまいただいたご意見を参考に、博物館の運営を検討していただきたいと考えております。今日はありがとうございました。